

刊夕日二廿月一十

常磐毎日新聞

定価 一部五銭 二部五銭 郵税五銭
 廣告料 五銭 十二字 第一行 金五銭
 日曜 祭日の日 休刊
 発行所 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日新聞社

子供の耳

醫師 大和田郡司

冬への移り目の不順な氣候の爲に、よく風邪をひきひいては中耳炎を起し易いものです。

中耳炎なんか大した事ではあるまい位に思つて油断してゐると、やがて恐ろしい乳突炎起つたつて、取返しのつかぬ事になります

中耳炎は大抵先づ熱が出て、耳が痛み、その上耳が何だか閉がつた様な感じがしたり、急に物が聞えなかつたりする徴候がある。

その場合その部分を冷すのはよいが、膿が十分に出不いのにそのまま放つて置いたりすると、化膿性内耳炎となつたり、乳突炎起つたり易い。

中耳炎からそれらになる時間は、急になる場合もあるし、やゝ経過してからなる場合もあり、ハッキリしないが化膿性内耳炎になるともう手遅れでバツタリと聞えなくなり、激しい目まひがして直立してゐられなくなる。かうなると内耳と膿膜は紙一重ですから危険

であります。

また乳突炎起つた後、骨が、うみの爲に壊されるのでその場合直ちに切開してうみを出すのですが一方外部のみでなく、内部の膿膜の方も犯される恐れがありますから、手術は急を要します。

これらは急性中耳炎から来る場合もあり、又よく見

- 朝 牛乳 トーストジャム
- 朝 リンゴ ビーチ
- 晝 鶏御飯
- 晩 刺身 まぐろ 温豆
- 腐 こんぶしき
- 花 かつを

受けるところですが、紙燃等で時々うみを出してゐる様な慢性中耳炎から来る場合がありまますから注意しなければなりません。



忘却の風

青桐 颯夫

樹の中に
寂莫は軽く、しめやかに

グエールを掩ひ陽、春きたり

白い夕暮よ、この静謐なる行路にわたくしは今日も永遠に消滅しない風景を捜さうとするのである

夜邊なり

母よ、あなたは秋風に乘つて訪ふのにわたくしは幾度あなたを嚮にさがさうとしたことか

忘却の風の吹いてゐる廣場に
衢の雑踏のはづれで

小徑をひて樹の下を
秋風の様に歸つて来れば
神さびて雅雅しき
素秋の塑像の寂智なる眸

哀しい透雨のやうな落葉が落葉の上に累めばやうやく感傷が舞臺の上にせり上つてくる

されば私の子供達よ

わたくし達はこれから再び地球の圏外に忘却された谷間を下らう
もしかしたら其處に母が燐燐の煙を出してゐるかも知れないから

十二月二十三日ヨリ七日間

七五三御祝着と

冬衣大賣出し

呉服は今が御買時生絲値上り前の最廉價品を豊富に取揃へ更に大奉仕!

- 特別サビ●
- 可愛らしいお子様の晴着を召した健やかな御姿を永久に記念として 縣社子銀倉神社の大前にて
 - 十五圓以上の御上手札形三枚一組
 - 三十圓以上の御キヤビネ形三枚一組
 - 記念撮影呈上致します

見習小店員大募集 (御申込次第) 町平三井呉服店

電話三六二八四番

類焼

改築三週年記念

スポーツに紅葉狩りに秋冷快適の折からハイキング、ピクニック等の礎是非御立寄を御願致します。因みに価格は左の割引を以て御客様の御愛顧に酬ひんとする弊店の意の在る所をお酌取り下さい。

ヒレナベ (御一人前) 四十五錢ヲ四十錢
 ロースナベ (同) 三十五錢ヲ三十錢
 平町田町

石川亭

電話四三番

吉田眼科病院

平紺屋町電話六八番
 醫學士 吉田久雄

割烹 住吉屋本店

電話一五九番

御婚禮、忘年会、新年會は
 特に御相談に應じます

豫て御好評のヒナ鳥

●鯛 ●水 ●茶

毎日献立差替へ調理致します

梅印 珍珠江ノ島鍋共五品 御一人前 金 壹圓

竹印 珍珠江ノ島鍋共五品 御一人前 金壹圓貳拾錢

松印 珍珠江ノ島鍋共五品 御一人前 金壹圓五拾錢

毎度格別なる御最負に有難く御禮申上げます
 弊店御得の季節向御料理と致しまして此度は純江ノ島料理を始めました。何卒御尊來御試食を賜り度く伏して御待ち申上げます

◎江ノ島料理

あばら家同然な

平商校舎の新築

愈よ商友會員が蹶起して

是れが達成に運動を開始

平商業学校の校舎は元の磐中校舎に膏藥張的な修繕を施し今日迄辛うじて生徒を收容し來つたが其後の腐朽の程度は言語に絶する有様で雨は洩り放題、硝子戸は壞れて風の日は教室内に砂塵を捲くの慘憺たる

現状で 頻りに改築の急を叫ばれて居る折柄縣移管を前提として愈よ同校商友會は今回全會員を動員しあばら家同然な同校舎の移轉新築運動に

乗出す事となり本廿

母校を懐ふ

熱情の溢れた

卒業生提出の陳情書

別項：本日平町長に提出された商友會提出の平商業学校の敷地移轉及び新築に關する陳情書は左記の如くである

母校平商業学校は晨に平町が時勢の進運と時代の趨向とを洞察し且又本町が漁業地帯と炭礦地帯とに介在し産業に富み

商工業は 振賑を期す

甚だ大にして是管に本町の面目たるのみならず吾商友會の日夕感激措く能はざる所なり惟ふに教育の事たる人的要素たる教職員と

物的要素 たる校地校舎と兩々相俟つて完全なる機能を發揮し得たるは敢て

下調査 を依頼したが三千圓を要するとの事豫算の都合上未だ實現に至らないが商友會の人々の熱心な陳情もあり町として難關である豫算と敷地問題等から研究して行き度いと思ふ

ざるは勿論一朝有事に際しては其の生命の安全をも保し難きに至らんか是寔に母校外觀の實情にして

更に之を 仔細に檢すれば戦慄を禁じ得ざるものあるを信ず假令彌縫策として應急修築をなすに年々莫大な工費を投ずと雖徒らに工費を嵩むのみにして不安と危険とは依然として持續すべく誠に恨事中の恨事と謂ふべし是に於てか新築の

郡下の郷倉

近く八十四ヶ所 併し稲作減收で 貯へる米に困る

既報—郡下農村の郷倉設置は本年四月以來縣農駐在吉成技指導のもとに各地に着手し現在迄に竣功した郷倉は四十四ヶ所未検査のもの二十ヶ所等六十四ヶ所に達し更に現在着工中の川前入遠野、澤渡、田人の各五ヶ所を加へると郡下の郷倉は八十四ヶ所の多數に及ぶので本年度の如く稲作の減收を豫想される年には折角出來上つた郷倉に貯はる米に困るだらうと今から對策に悩んで居る

女師範生見學

福島女子師範學校第二期教生

部二年三十九名は來る廿六日より瀧井教諭、川淵訓導引卒の下に濱通り各小學校の視察を行ふが郡内に於ける視察日程は左の如く決定し

極めて緊要にして一日の荷守を許さざるは誠に

明白なる 事實なり要は生徒學修上叙上の如き不安と危険とを速かに去り清

新潤達の氣魄の下に安んじて勉學せしめ以て母校設立の趣意に悖るにとなきを期する所以にして此の主旨のある所を賢察の上速かに新築し積年の願意を採用せられ格別の詮議賜り度茲に謹んで陳情す

青年學校 視察研究

本郡教員對抗

縣主催青年學校視察研究會は廿二日午前九時から泉青年學校で開催關係市町村長、學校長、教練科擔任教員約三百名參集、同校の施設訓練及び修身公民其他普通學科の實地授業等を共同視察の午後後から協議研究會に入り意見開陳質疑應答等あつたが平町よりは郡下青年學校配屬將校大井川中佐、佐藤中尉を始め篠山平青年學校長、大越教諭等多數出席した

多賀軍と

本郡教員對抗

郡下小學校教員對多賀郡教員との對抗競技はいよいよ廿三日午前十時から茨城縣松原小學校で庭で舉行されるが連勝を期する本郡教員チームは廿三日午前七時卅分發列車で勇躍出發する

平職業紹介所報告

回人を求める方

△農夫 六十迄 日給五十圓位

△粕ヅ夫 三十迄 月十二圓位

△料理見習 二十三才 尋卒 月七八圓

△賣子 尋卒 賣上の一割

△十月廿六日平一泊△同廿七日平第一小學校圖書唱歌科見學及平町各學校の自由參觀、午後四時湯本入山炭礦視察、小名濱一泊△同廿八日小名濱小學校理科、家事、裁縫科見學、小名濱午後三時半發午後四時平發歸福

軟式野 運動具店

球大會 運動具店

主催の第五回軟式野球大會は昨報の如くいよいよ明廿三日午前八時から平第一、平南兩球場で舉行されるが組合せ左の如く決定した

尼 子 みどり

城 山 一丁目

平驛TS 發電所

遞 友 平 鐵

不戰一勝半驛ヤート

教員會が 總集會開催

石城郡小學校教員會秋季總集會は既報の如く來る廿四日午前十時から平第一校で開催會長の補欠を選舉して講師福師教諭小池元吉氏の講演ある筈であるが尙左の如き會員の研究發表がある

(小學校に於ける職業指導)本校岡部政一解決

農事品評會

田人組合村の農事品評會は本廿二日より廿四日迄田人校に開かれ郡農會柴田技手が審査長として出席したが更に廿三、四の兩日は小川組合村廿五日から廿七日迄は玉川村で各々農事品評會が催される

- 五分給
- 回職を求むる方
- △旅館番頭 三十四才 高卒
- △自動車助手 二十一才 尋卒
- △トラック助手 十八才 高卒
- △女中 二十才 尋卒
- △雜夫 二十才 尋卒

山葉オルガン・ピアノ特約店

國定教科書販賣所

角忠 佐々木商店

平公園前・電話二三三番

梅津師團長

來平を機に

時局講演會計畫

内地部隊隨一の支那通

昨報警中の教練査閲の爲め來平する梅津第二師團長は佐伯若松廿九騎隊長、同入江中佐、大井川配屬將校等と共に來る廿四日午後三時十二分平驛着列車で來平直に自動車で小名濱港を視察の上平町住吉屋本店に一泊廿五日警中校庭で査閲を行ふ豫定であるが梅津師團長は日支事變に勇名を馳せた内地部隊切つての支那通なので平町當局は此の際を利して支時局講演會計畫を催すべく交渉中である

又も炭車事故

今度は磐炭に

内郷村大字宮字宮澤磐炭坑夫佐藤敬一郎(四〇)は昨廿一日午後六時二十分頃町田坑内でトロの運搬作業中炭車と離水鐵管の間に挟まれて即死した

琴古流尺八

靜久會演奏

平町琴古流尺八の第一人者たる小野靜堂師の門下よりなる靜久會の發會記念三曲合同演奏會は明廿三日午後一時より平町仲町琴曲指南遠藤佐喜乃師宅に開催されるが同會の顔觸れは辯護士大嶺庫氏を始め山本、新谷

迄の締切を十二月卅一日迄延期されると

横着馬子

幼兒を轢く

赤井村大字赤井字常任荷馬車○業明智銀藏(五五)は昨廿一日午後二時半頃荷馬車に石炭を満載して同村大倉地内を通行中馬の口取をせず荷馬車の後からついて來た爲め前方で遊んで居た同字桑澤幸雄(六〇)を車輪で引倒し右足に全治三週間の傷を負はし平町諸橋病院に收容した

海軍志願兵

期日延期

郡下各町村の十一年度海軍志願兵採用試験は明年二月廿九日より三月二日迄の三日間平町で行はれる事に決定し郡下の採用人員は二百二十名であるが平町現在の志願者数は僅かに九名で郡下全體として豫定数の半數に達せず農繁期その他の關係で願書提出が遅れ勝ちの有様で本年は特に本月末日

前借踏倒

助川の女給

平町立町居住渡邊甚藏長女トキ(一八)は去月中より茨城縣助川のカープエー金子熊太郎方に前借三十五圓で女給に住み込んだが去る廿日前借金を踏倒して逃走したので雇主より本日本署に捜査方を願ひ出た

旗行列

平町の學童が

來る廿五日に

平町各小學校は日廿五日午前十時半から左記道順により旗行列を行ふと
△平第一校 紺屋町 南町 新川町 五丁目(三校合流) 本町通り歸校
日の廿五日午前十時半から左記道順により旗行列を行ふと
△平第一校 紺屋町 南町 新川町 五丁目(三校合流) 本町通り歸校

納税普及の

平町各小學校は日廿五日午前十時半から左記道順により旗行列を行ふと
△平第一校 紺屋町 南町 新川町 五丁目(三校合流) 本町通り歸校

明日のラジオ

廿三日

今夜も明日も南東の風天気次第に悪くなる

今晚の部

- 後六〇〇 子供の時間 吹奏樂 仙臺市青葉青年團音樂隊
- 後六二五 基礎英語講座 岡倉由三郎
- 後七〇三 青年の夕講 演「令旨奉戴當時を偲びて」田子一 民間情報誌と青年の覺悟 辻衛文 藤日
- △平第二校 田町 大工町 町丁目(三校合流) 本町通り歸校

無免許の養蠶教師

發覺して罰金十圓に處さる

石城郡入遠野村大字入遠野字中妻三四古川與助(五九)は知事の免許を受ふず去る五月八日より九月十日まで養蠶教師と名乗り同村字南十四折笠松吉外七名方で養蠶飼育の指導に當りその謝禮を合計四十圓徴收した事發覺平蠶業取締支所長目黒誠之氏に告發されたが今廿二日平區香西判事より福島養蠶教師規則違反で略式罰金十圓に處された

村會議員の失格を免る

川内選舉違反 恩情豊かな言渡

双葉郡川内村大字川内字行分二〇〇農石近平(五〇)同村大字上川内字瀬戸九農新妻安助(四七)の兩村會議員が過般の縣議選に運動者の届出なく候補者山田六郎氏を連名推薦せんとし九月廿一日同村鈴木忠信氏外五名を歴訪連名に加入方を勧誘した選舉違反事件は去月廿六日平區香西判事より略式罰金三十圓と公民権の停止を言渡されたが兩名は公民権の停止を不服とし正式裁判の申請をなした結果昨廿一日香西判事係り清田檢事立合、門傳、千葉、山田(東京)の三辯護士列席、公判開廷され罰金は前言渡通り卅圓だが公民権は停止し

- 前九、三〇 ラヂオ世界見物「イタリ」遠藤慎一
- 前一〇、〇〇 記念講演「新穀感謝祭舉行の意義に就て」山崎農相
- 前一〇、三〇 講演「日本神話に於ける親子關係と夫婦關係」福島政雄
- 前一一、〇〇 講演「我國に於ける社會立法の發達」北岡壽逸
- 後〇、五〇 雅樂 宮内省樂部
- 後一、二〇 室内樂 名古屋ストリングクワルテツ
- 後一、五〇 マンドリン合奏 東北帝大マンドリン
- 前九、三〇 ラヂオ世界見物「イタリ」遠藤慎一
- 前一〇、〇〇 記念講演「新穀感謝祭舉行の意義に就て」山崎農相
- 前一〇、三〇 講演「日本神話に於ける親子關係と夫婦關係」福島政雄
- 前一一、〇〇 講演「我國に於ける社會立法の發達」北岡壽逸
- 後〇、五〇 雅樂 宮内省樂部
- 後一、二〇 室内樂 名古屋ストリングクワルテツ
- 後一、五〇 マンドリン合奏 東北帝大マンドリン

平町人事

回出生

- △六間門田島清松氏長男亘
- △古銀治町當時茨城縣磯原町菅波福松氏七男信昭
- △古銀治町當時東京市王子區山崎浩氏二女和子
- △赤井村字日渡會川孝太郎氏(三八)長橋町加澤キヨ(二五)さん

一冊の代金

御希望通りな五冊の雑誌が自由に讀める川崎文庫

川崎文庫 電六三〇番 (申込次第規則書進呈)



明治太平記

(作) 寺島征史
(監修) 寺島征史

第二百八十二回

蒸汽車 (七)

茂平次は、窓外に飛降りようとする大志賀の黒羽二重のすそをおさへて「そ、そこを飛び降りたら體が粉微塵になりますわい……」

「黙れ、百姓町人とは違ふぞ」

黒羽二重の裾を拂つて、ひらりと疾走する車外へ飛び降りた。

「あッ！」

しかし、茂平次は、驚いて立上つただけでは済まされなかつた。ウエルズを退車させたために、いま大志賀を飛降りさせてしまつたのだ。責任の全部が自分にある。

「さうだ。おれも……」

茂平次も、ついで窓から半身を乗り出し、やけに走つてをる蒸汽車から、砂礫か、草原か川か、崖かわからぬが、めくら滅法に、飛降りてしまつた。

蒸汽車は、一向にそれに介意せず、けむりを吐き、車輪の音物凄く、ふたりを振落したまゝ前方へ走つていつた。

しばらく、蒸汽車の去つたあとの妙に、氣のわるい静寂がそこにあつた。たゞそれだけ、草の葉のそよぐ一つない。この鐵路のほとり、どこからか、やがてかすかに生きものゝうめきがきこえた。

に耳を傾けた。
「はてな。隙間としてをる頭が、次第にはつきりしてくると、蒸汽車から飛降りた無芽な自分がかへりみられた。」
「さうだ。おれはいま蒸汽車から飛降りて、頭を打つて氣を失つてをつたのだぞ……」
何のために、蒸汽車から飛降りたのか……と、それがはつきりわかつてくると茂平次はむっくり起き直つた。
「さうだ。あのうめきは、大志賀さんだ。無茶な



消え入るやうな、けれどまだ人間の意志の力強さをおもはせるやうな……うめき……
こちらの草かげで、やつとわれにかへつたエトロフの親方は五體の痛みもわすれて、どこからか流れてくる、この生きものゝうめき

助太刀屋さんが。
四ノ這ひの茂平次は、うめき、聲のするところまでゆくうちに足腰が立つた。
「大志賀の旦那」
助太刀を呼んでみた。
うめき聲が、それに應へた。
「ど、どこで、おまへさ

んは……」
うき聲は、すぐ足もとにあつた。助太刀屋は、半顔を砂や小石にすりむいて、血みどろだつた。
「だから、無芽をしてはいけないといつたのに……」
茂平次は、自分の足腰の痛さを忘れて、甲斐々々しく、大志賀を抱き起し介抱する。
「親方、蒸汽車はとまつた車を止めて、茂平次が下車したものと思つてゐる。「不便な、文明開化の利器といふ奴ア、そんな、われ」のいふことなど詰いて

くれるものかい。わしも、おまへさんを真似て飛降りましたよ」
「怪俄はなかつたか」
「なんの、おまへさんとは違ひますぞ」
「うむ、見くびつたな……おい親方、ウエルズを追つかけるのだ」
大志賀は、起ち上らうとしたが、腰がくだけた。
「おつと、危ない。そんな弱腰で助太刀でもありますまいよ」
「いや、是が非でも、けふ彼奴を討取らずにをくもの

花環 神佛葬具
盛花 新川平
久壽玉 町本
御弔燈 屋
寶明燈 靈柩自動車
造花
平橋
川本
屋
三六一電

かまぼこ 製造
お惣菜用
さつま揚
吉原揚
平町一丁目
電話一四一巻

石炭一〇〇パーセント
サーヴキス
時節柄 値下げ!
ダンゼン
一塊 正味五〇斤入一俵 金貳拾八錢
一塊 同 金參拾五錢
品質が優良 デナケレバ 高イモノニナリマス
目方が正確 此の点は當店を絶対に御信用願ひます
◎市内は一俵より配達致します
電話三七番
阿部石炭商店

夜間
胃腸病科 内科
花柳病科 性病科
皮膚科
門專
院醫性病胃腸村松
(番七〇一町南町平)

喜多流 諸曲と仕舞の
お稽古をお奨め致します
平町田町六九
喜多流 仕舞曲白土會
電話一二七番